

瑞芝山 閑臥庵 ～知られざる神秘なる空間～

京へと入る「京の七口」のひとつ鞍馬口にある「閑臥庵」は山号を瑞芝山という黄檗宗の禅寺です。もとは、梶井常修院の宮の院邸であったが、江戸時代前期に後水尾法皇が、夢枕に立った父・後陽成天皇の言葉に従って、王城鎮護のために貴船の奥の院より鎮宅靈符神をこの地に勧請し、初代隠元禅師から六代目の黄檗山萬福寺管長千呆禅師が1671年に開山となって寺としたのが当寺の起こりです。



本堂・御本尊釈迦牟尼佛坐像

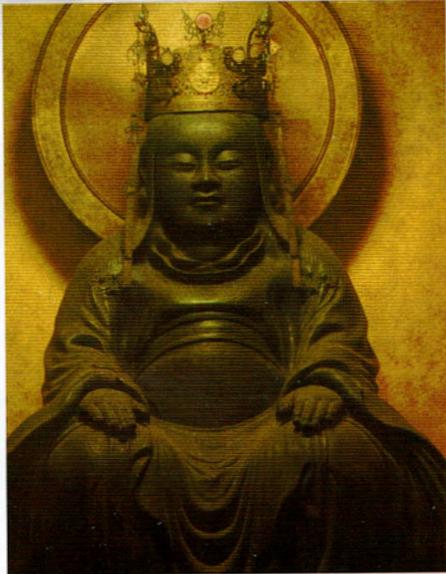
御所の祈願所として法皇自ら「閑臥庵」と命名し、御宸筆の額を寄せて勅号としたほか、法皇は、春に、秋に、和歌を詠んで庭を愛でたといわれ、

秋の句「明けぬとて 野辺より山に入る鹿の あとふきおくる 萩のした風」など、御宸翰その他が今も伝えられています。



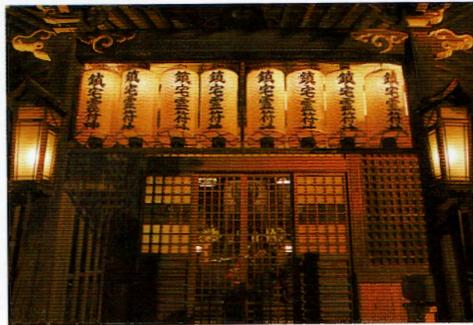
閑臥庵・境内

陰陽道ゆかりの地 安倍晴明開眼の北辰鎮宅靈符神



鎮宅靈符神

閑臥庵に祀られている北辰鎮宅靈符神は、十干十二支九星を司る総守護神であり、陰陽道最高の神とされています。その鎮宅靈符神は、平安時代の中ごろ円融天皇が方除・厄除の靈神とし京都のうしとら(東北)にあたる貴船に祀ったもので、天皇が陰陽師の安倍晴明に付託開眼させたと伝えられる金剛像で、高さ四尺五寸の神像です。



鎮宅堂



御廟を護る狛犬の台座に刻まれた五芒星(晴明桔梗)

鎮宅七十二靈符

日本で最も有名な靈符の一つである「鎮宅」とは、家屋の安全、招福を祈るという意味で「家内安全のまじない」でこの七十二枚の靈符には、一枚一枚に意味がある。

閑臥庵の寺宝

後水尾法皇ゆかりの品

法皇が閑臥庵に来られる度に使われた玉座には、金糸で刺繍された大輪の菊のご紋が残っています。この玉座が継承されたということは、この寺が法皇にとって大切な御寺としての位置づけだったという証しでもあるのです。



玉座



後水尾法皇御宸筆「閑臥庵」書



(辰)



(酉)

伊藤若冲版木

若冲が生き生きと描いた十二支の印を付いたお札は来山する人へ、健康祈願と満願成就を願い配られました。



如意

砂曼荼羅

開山330周年と後水尾法皇の法皇忌を記念し、チベット密教の高僧が来日して閑臥庵にて砂曼荼羅を制作しました。人の域を超えた神秘的な世界をご観覧頂けます。



釈迦牟尼佛砂曼荼羅

